

天草探見

浜名志松文学資料館

天草市天草町大江。

隠れキリシタンの里であり、白亜の大江天主堂で有名なひなびた山漁村である。

その大江の町に、「**濱名志松 五足の靴 文学資料館**」

はある。

資料館発行のパンフを見ると。

大正元年10月12日、牛深市魚貫に生まれる。

長じて教職に勤めながら、天草の文化研究に励む。

退職後は、農業をしながら、更に研究・出版を手掛ける。

そして、96歳にして平成21年1月9日、天寿を全うして永眠。

これだけなら、それほど大したことはないようだが。

大江と言えば、五足の靴のハイライト。

大江天主堂にガルニエ神父を訪ねるくんだり。

現在の大江天主堂を私財を投じて作ったのが、フランス生まれのガルニエ神父だ。

埋もれていた「五足の靴」を世に出したのは、野田宇太郎。

そして、それを更に世間に認知させたのが、浜名志松だ。

濱大江天主堂前に、五足の靴一行のひとり、吉井勇の歌碑が建っている。

「白秋と ともに泊まりし 天草の 大江の宿は 伴天連の宿」

この碑の建立に尽力したのも浜名志松である。

「街道をゆく」の著者、**司馬遼太郎**は、天草を訪れた時、浜名と会っている。

司馬は、浜名を肥後に多い重厚な紳士と評している。

ボクは浜名と会ったことはないが、ボクの歴史の師を通じて、浜名の著作を読み、墓を、そして生まれた実家を訪れ、勿論資料館にもたびたび訪れ、なんだか生前にあったように気さえてしている。

ボクが卒業した後だったが、出身小学校の校長も務めている。

大江を訪れる機会があったら、大江天主堂、ロザリオ館だけでなく、是非この資料館にも足を延ばして欲しい。

浜名志松著作。

「五足の靴と熊本・天草」 図書刊行会 1983年6月10日第1刷

「天草の民話」 未来社 1970年3月20日第1刷

「天草の土となりて ガルニエ神父の生涯」 日本基督教団出版局 1987年7月25日 初版

「九州キリシタン新風土記」 葦書房 1989年6月15日発行

「天草靈験の神々」 図書刊行会 1990年4月30日発行

また、短歌でも、詩集「岬」を創刊・主宰をつとめ、天草短歌会の重鎮でもあった。

写真は、いずれも資料館パンフより。



▲ 濱名志松 五足の靴文学資料館

濱名志松五足の靴文学資料館は、平成22年10月に築100年の自宅を一部改装して開館しました。

この地は、明治40年8月5人の青年詩人(与謝野鉄幹・北原白秋・木下幸太郎・吉井勇・平野方星)が九州のキリシタン探訪の最終目的「大江教会の青い目のパテルさん」と会った地です。

この資料館に入ると100年前の「五足の靴」の足音が聞こえてきそうです。

